

# 県立高校の再編と朝日町の活性化に関する 意見及び要望書

平成30年1月29日

朝 日 町  
泊 高 校 未 来 創 生 会 議

## 県立高校の再編と朝日町の活性化に関する意見及び要望書

朝日町の行政諸施策の推進につきましては、日頃から格別のご指導ご高配を賜わり、厚くお礼申し上げます。

さて、県立高校再編につきましては、去る1月19日に開催された第3回県立高校教育振興会議において、再編対象校は泊高校を含め4校を対象にすることが望ましいとの報告書がまとめられ、久和会長から石井知事に提出されたところであります。

今回の報告書の内容については、非常に残念な結果であり、これまでの高校再編の議論の進め方を含め、県に対しては不信感と憤りを感じております。

その主な理由としましては、これまで朝日町は、あらゆる機会を通じて、「1市町に1高校を保持することを基本原則とし、当町になくってはならない泊高等学校の存続」を重点に置き、富山県に要望してきました。

また、町や泊高校未来創生会議の関係者が、県立高校再編の意見交換会等においても、地方創生（地域活性化）と子どもファーストを両立する観点から、県に様々な意見や提案をしてきましたが、それらの声を全く反映させようとせず、原案通りに進められたことに対し、多くの町民からも強い反発の声が沸き上がってきています。これらのこと含め、仮に報告書通りに県が結論を出すことになれば、将来に大きな禍根を残すことになると考えております。

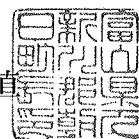
高校再編を検討するにあたっては、そもそも小規模校から閉校（統合対象校）にするという判断は適切であったのか。また、高校の伝統継承や通学が不便になる地域の生徒への配慮が十分吟味されたのか。さらに、地方創生が盛んに唱えられる中であって、高校は教育の現場であると同時に、地域の活力の「資源」でもあることから、閉校になった跡地を含め町の活性化策については、県は責任を持ってビジョンを示すべきものと認識しています。

高校再編の最終決定については、この後の県総合教育会議で行われることとなりますが、朝日町と泊高校未来創生会議としては、次の事項について、知事に直接意見を申し述べ、要望させていただきます。

つきましては、富山県の最高責任者として熟慮に熟慮を重ねたうえで、朝日町民にとって、納得、理解ができる判断をしていただくよう、お願いするものであります。

平成30年1月29日

朝 日 町 長 笹 原 靖 直



泊高校未来創生会議座長 水 島 一 友

## 記

### 1. 意見交換会で寄せられた意見（声）の反映

- ・これまで意見交換会等で、再編に対して数多くの反対論や慎重論があり、それらの意見は県で行われた各会議に「報告した」と回答しているが、再編方針や今回の報告書にどのように生かし、反映されたのか。仮に反映された具体例があるならば示していただきたい。

### 2. 小規模校に特化した再編基準の見直し

- ・朝日町民の願いを無視し、小規模校の統廃合を特化（強く意識）した手法で高校再編が進められてきたことは、非常に残念である。これまで「幅広い選択肢の中に小規模校を含めるべき」や「切磋琢磨の成立は小規模校でも可能である」などといったことを主張してきたが、県教育委員会の明解な回答はなかった。このことについて、丁寧な説明ができるのであればお聞きしたい。

### 3. 都市部集中を是正する高校再編

- ・知事は「東京一極集中の抜本的な是正」のため、東京の大学の新增設を抑制する方策などにご尽力を図ってこられたが、富山県の高校再編においては、それを逆行させており、納得できない。国の動きと県の動きを一致させるべきではないか。このことについて、改めて見解をお聞きしたい。

### 4. 地方創生を重視した地域活性化

- ・このまま進んでいくと、市町から高校が無くなるのは、朝日町だけであり、生徒、保護者、町民の方々の失望感や不安感が広がる。このことは、県が目指す「県全体のバランスのとれた発展」や、県政方針にある「市町村、地域との連携と支援、県土の均衡ある発展」を進めることとは、真逆になり納得できない。「真のバランスのとれた発展めざす」ことについて、知事自身が具体的にどのように考えておられるのかお聞きしたい。
- ・これまで、朝日町は「地方創生の究極は、まずは地方の活性化であり、それが全体の活性化につながる」と主張してきたが、県は学者の論理だけを引っ張り出し、我々の見解とは違っていた。某県の知事は「端っこそが大事、端っこが無くなれば真ん中も無くなる。真ん中ばかり力を入れると全体がおかしくなる」と常々に言っていると聞くが、このことについて知事の見解をお聞きしたい。